

穂学

令和元年度

広州日本人学校学校便り

[No. 3]

令和元年6月10日(月)

発行責任者 教頭 渡邊美佐子

「City of flowers (花の街) 広州」

校長 喜屋武 浩司

6月になり中国では端午節休日(6月7日)をもうすぐ迎える。日本では6月は梅雨の季節に入るが、ここ広州では4月から雨の多い日が続いたり、雷雨になったかと思うとしばらく暑い日が続いたり、季節的な言葉が見当たらない。ある方から「日本のような梅雨はないけど、雨期と言えるかもしれません」と話を伺った。なるほど、梅雨よりも長期的に雨が降るイメージが雨期であれば、まさしく、現在もまだ雨期と言えるだろう。

さて、広州は City of flowers 「花の街」と呼ばれており、検索すると右のような花いっぱいの広州の街が紹介されている。緑いっぱいの町中には、ブーゲンビレア(赤い花)が咲き、今の季節、街路樹として並ぶゴールデンシャワーの黄金色の花が咲き乱れている。亜熱帯の花で沖縄でも咲くが、時期が一ヶ月ほど早いようである。



<花いっぱいの公園>

また、同じく街路樹としてマンゴーの木が多く植えられ、四月には花の時期を終え、小さな果実が付いていた。マンゴーは空気を浄化する作用があるということで中国では多く植栽されている。校内にはマンゴーが二本植えられているが、去年は豊作で多くの実がとれ、警備員なども喜んで自宅に持ち帰ったようである。残念ながら、今年はかなり少ない気がする。



<ゴールデンシャワー>

さて、今月は小学部で東風東路小学校との交流会、中学部で華レン大学との交流会に続き、小学6年生の西安への修学旅行などが予定されている。本校は学校教育目標に「自ら学び、個性豊かに国際社会に生きる児童生徒の育成」を掲げている。小学生が交流のお土産に折り紙を折った。一つ一つ個性的でその児童の心がこもっている。また、交流先の児童生徒・学生も自国の文化を心を込めて伝えてくれる。心通わせる素敵な交流が、将来の国際社会を形づくっていくことを心より願うばかりである。

穂学5月号で「話し合いの十箇条」を紹介しましたが、国際交流会に関連し、そのつづきを二つ紹介したいと思います。

3 自分の感じたこと、思ったこと、考えたことを間違っているかなと思っても、そのまま話しましょう。主張するとは、自分自身を大切にし、自分らしく生きることであり、自分自身を強くすることでもあります。

4 わからない友だちには、自分のわかり方を自分の言葉で説明しましょう。説明するとそれが自分の力になります。

いかがでしょうか。日本人は控え目なところがあり、自己主張するのが下手だと言われます。自分らしく生きるために自分の主張をしっかりと伝える努力をすることも大切ですね。

カレン大学交流会

6月5日、中学部は華レン大学を訪問し、交流会を行いました。中国語で作った名刺を交換し、中国語や英語を交えてコミュニケーションを図りました。その後、5つのグループに分かれ、創作活動（中国の結び編み、切り紙、顔面絵描きなど）も行い、中国の文化を学ぶ貴重な体験となりました。

